

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 獣医学科

職階 教授

氏名 中村 紳一郎

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3 年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

「実験動物」と「動物実験」について、適切な理解を促す。獣医学科においては獣医師国家試験、動物応用科学科においては実験動物技術者1級の資格試験に合格できるためのレベルを目指す。実験動物学は生物学的な要素から施設管理、法令文書などバラエティに富む内容が含まれているため、研究室教員でも講義は可能であるものの、両学科の実験動物学14回の講義中5回で、外部特別講師を招聘し、実践に根ざした講義をコーディネートした。自身が行った講義では、講義中に資格試験の過去問で講義内容を復習させると共に、講義後の小テストの問題にて、重要な内容の確認を行った。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
獣医学概論	獣医学科	必修	1	135
実験動物学	動物応用科学科	必修	2	168
実験動物学	食品生命科学科	選択	2	58
実験動物学	獣医学科	必修	3	145
比較動物学	獣医保健看護学科	必修	2	77
総合獣医学	獣医学科	必修	6	163
実験動物学実習	動物応用科学科	選択	3	62
実験動物学実習	獣医学科	必修	2	155
実験動物学実習	獣医学科	必修	4	134

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

実験動物学が、各種科目の寄せ集め的内容であるため、各科目の基礎的な内容（特に解剖学、生理学）の反復・確認を行いながら、この科目特有の動物種への理解を深めていく。実験動物の管理手法、施設の管理手法などは写真や動画を示し、実務内容を織り交ぜながら、理解を深める。法令などへの理解も必要であり、「浅く、広く」の科目であることを周知する。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

無

特になし

(2) ICTの教育活用

有

実務的内容については、Webで公開されている動画をシェアし、さらに研究室でも独自の動画を作成している。動物の解剖手法などもタブレット用アプリを用いている。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

授業の最初に、前回の授業の振り返りを行って、復習をしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

数度に1度、小テストを資料を見ずに、講義時間内に解かせている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

任意で、予習の課題を出した。やってくるのが毎回10人以下で、やめた。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

基本的には質問があれば、答えるが、こちらから積極的なコミュニケーションは取っていない。

(5) 双方向授業への工夫

C

特になし。

(6) 国家試験対策の取組（獣医学科・臨床検査技術学科）

A

過去問の傾向を十分に解析し、講義相当学年から国試問題を示しつつ、自身が達成すべきレベルを理解させる。最終学年の総合獣医学で、出題される科目内の項目の「濃淡」を考えながら、復習を促す。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

スライドの解説文章が長かったのを、短くした。

(2) (1) の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

ビジュアル的には良くなったかもしれないが、足りない部分を口頭で説明した内容は、メモを取っている学生が少ないものと見受けた。スライドで示している内容は、あくまでも要約であり、知識を深めるために、自身でノートなりメモづくりが必要なことは（当たり前のことなのだが）、事前に確認する方が良さそうである。

(3) (2) を踏まえた次年度の取組

スライド + α が必要であること、場合によってはノートの提出などが必要かもしれない。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

- ・小テストを資料を見ずに、講義時間内に実施する。
- ・学習の足跡の確認（ノート、レジュメの上書き等）

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

特になし。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

- ・一般社団法人デジタル教育推進機構発足記念シンポジウム講演
 - ・教職課程FD研修会
- を視聴した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

授業を行っている過程の中で、理解度と学生がやったことを確認する作業を取り入れたい。時間が許す範囲で。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

特になし。